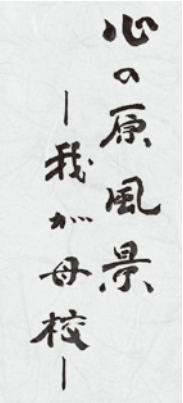

佐渡市立 川茂小学校

標高１７０ｍ、市内小中学校の積雪記録保持校です。雪は、子どもたちに楽しい遊びを与えてくれるだけでなく、夏でも豊かな水を恵んでくれます。山、川、田等、自然豊かな環境に学校はあります。

児童数は14名です。運動会や市音楽発表会の取り組み、日ごろの清掃、給食配膳等も全校児童が協力して活動しています。

市教育委員会の学校支援事業を活用し、ふるさとを学ぶ、ふるさとの人から学ぶ活動を通して、進んで人と関わり、進んで学ぶ態度の育成、川茂に誇りと愛着をもてる人づくりに取り組んでいます。

生活科、総合学習、学校行事等に地域の協力は欠かせません。椎茸栽培、野菜作り、郷土食作り、高齢者や保育園児との交流会、佐渡おけさ講習会等です。

運動会、文化祭は地域・保育園と合同です。運動会では、生演奏・歌に合わせてみんなで佐渡おけさを踊りました。

今年度末で閉校となります。

文化祭では、これまでの民話劇に代え、川茂の自慢、学校の歴史を発表します。郷土史家に学んだり、老人会・祖父母から聞き取りをしたりしています。

作品展では、地元書家の指導の下、自由題の掛け軸を教室に、学校や地域への思いを書いた１ｍ×３ｍの紙を体育館に全校児童分展示します。また、特別教室には、これまでの学校記録写真、全校文集を展示します。原風景の一端に触れ、地域、家族で母校への思いを語り合っていただければ幸いです。

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）☎23―４８９８

佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記 ⑲

金北山は死火山なの？

「金北山は火山ではないのです。」ジオサイトを案内する道中、佐渡の最高峰金北山の話題にはよく触れます。しかし、この発言を聞いて驚くのはたいてい佐渡に住んでいる方々です。

現在、「死火山」という用語は使用せず、「活火山でない山」というように区別をしています。活火山の定義は、「おおむね過去１万年以内に噴火した火山および現在活発な噴気活動のある火山」とされています。金北山をつくる地層は２千万年前のもの。当然、活火山ではないのです。

では、金北山とは一体どのような山なのでしょうか？金北山の地層のほとんどは約２千万年前に陸上で噴火した火山から出てきた溶岩などでつくられています。しかし、その後佐渡島は深い海に沈む時代を迎えます。そして、約３百万年前から金北山をつくる岩石は大地が動く力によって海底から持ち上げられ、現在の佐渡島の山々をつくりました。

金北山の土台は大昔の火山から流れ出たものでつくられていますが、金北山が高くなったのは、噴火の力ではなく、大地が動く力によって持ち上げられたからなのです。

富士山と比較してみましょう。富士山はお椀をひっくり返したようなきれいな形をしています。真中には噴火口があり、最近ではその火山活動に注目が集まっています。これに対して、金北山はきれいなお椀…のようには見えません。ごつごつした形が特徴です。これは、噴火のたびに溶岩が積み重なり大きく成長していく山（図１）と、大地が動く力で押され、持ち上がった山（図２）との違いです。

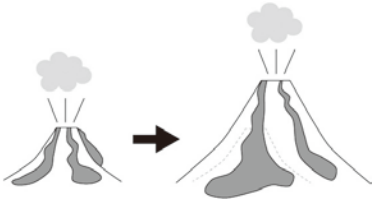

図1　火山でできた山は噴火のたびに高くなる。

図2　押される力によってできる山は隆起して高くなる。

富士山の美しさは世界でも有名です。しかし、金北山のでき方は、持ち上がったという意味で世界の最高峰エベレストのでき方と同じなのです。

人々が金北山に登る理由は、貴重な高山植物や豊かな自然を観察できるということだけではなく、大地の力によって持ち上げられた山であるということが関係しているのかもしれません。山の成り立ちを知ることで今までとは違った発見があるでしょう。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）☎23―２１０１